

「忍者、参上！川津の巻 その弐」

11 / 15 (土)

13:00-15:00

川津小学校多目的室・中庭

参加者:松江市内の小学校1年生～6年生
31名
おとな忍者参加者・スタッフ16名



講師:NPO 法人あそび環境 Museum

アフタフバーバン 清水洋幸さん 平川恭子さん 大雅賀代さん

小春日和の一日、「忍者川津の巻 その弐の巻」に集った子ども忍者、おとな忍者は50名近くにもなりました。昨年から引き続き参加の子ども忍者たちは、数日前から流行る気持ちを押さえられずにいます。



子ども忍者との本番を前に10時30分からはおとなスタッフ講座が1時間あまりありました。初顔合わせのおとながまずお互いの緊張をほぐし今日の事業を共に進める仲間になるワークです。30代から60代まで年齢も性別も違いますが、共通点は「あそび心満載」です。

普段の生活からは見られない一面がでる場です。

「ありのまま」という流行り言葉に負けない飾らず、「ここの場は自分としていれるなー」とワークを通して感じたとき、笑い声と共に自分の垣根、お互いの垣根も

低くなり、旧知のように親しくなります。仕事も個人の背景も関係ないその人らしい時間がおとなにも流れます。この時間がおとな忍者になる人にとっての大きな学びの場です。この講座のもうひとつの大きな目的の時間です。それにしても楽しい人たちが集まってくれました。こんなおとなの時間もこのまま続くといいなーと、みんなが思うひとときでした。

きょうの内容を聞き、チーム選びをします。1年生の女の子とやってみますー、4年男子がいいですー、さてどんな出逢いがあるかな。ワクワクとドキドキでおとなもその時間を待ちました。

1 2時半をまわり、子どもたちがやってきます。受付でなその紙をもらいポケットにしまうと風呂敷を頭に巻き忍者に次々と変身、その賑やかなことといったら！ワクワクする気持ち、ちょっと緊張と不安な気持ち、いろいろな気持ちを交差させながら会場にはいります。付き添いの保護者さんにも最初のワークは一緒に体感してもらいます。



3人の忍者の話と見る修行・聴く修行、おかしさ、おもしろさに、緊張した顔が笑顔になり笑い声が大きくなります。見ているお父さんお母さんもおかしくなってきたようにその場で参加している人もいます。小さい弟妹たちも見よう見まねで参加しています。会場全体がなごんでいきます。



受付で受け取ったなその紙は その日のチームわけの暗号。「いちよう」組から「もみじ」組「本」組など絵がかいてある紙をもとに仲間を探しチームになりました。学年と男女ごとのまとまりにおとな忍者が1名・2名と入ります。

自己紹介をし、ここからはチームで修行が続きます。みんなで山になったりお地蔵様になったり岩になったり・・・

岩はがしの修行あたりから一体感は増していきます。おとなの鼓動、子どもの鼓動、手のぬくもり、しがみつく子

どもの愛おしさ・・・何度やってもたまらない安心感・信頼感が一気に増すワークです。

そして場所を外に移し、今日一番の「謎とき巻物宝探し！」修行へとすすみます。

低学年、高学年チームにわかれ、それぞれの「巻物」を3枚の謎の文書にある場所に隠された「巻物入れ」をみつけなければなりません。しかし、やすやすとはできません。近づけないとする「影忍者」（黒忍者）がどこからともなくあらわれ、巻物を奪うというのです。

なその言葉はなにか、そして影忍者から逃れる方法をチームみんなで考えます。

低学年は、「に」、「まわる」、「しかく」という手がかりから、学校を「しかく」に「まわる」ところにあるのではないかと、「影忍者がしかくまわっていてその真ん中にある」とのではないかと等、たくさんの想像が膨らんで行きました。

影忍者対処法、意思になる、壁になる、風呂敷を身体のまえに壁のように広げる、などなど、さきに部屋で修行した体験を基にチームで決まります。

高学年は「きゅう」「たな」「まく」手がかりから、さらに情報を探るため影忍者の後を追います。影忍者



がきたら「カエル」になる作戦が誰からともなくおもいつきました。高学年ならではの想像力と見事な作戦です。

しかし、本当にみつからない。中庭をかけめぐり、行程にもおり、小屋の中、木の上も見てみるのに、それらしきものはみつかりません。しかも影忍者がどこからともなく、「チャリンチャリン」と鈴の音を響かせやってきます。1、2年生はそれだけでも固まってしまいます。しかし、影忍者にさわられようが、意思になった自分に座られてもビクともしません。なりきっています。見事な子ども忍者たちに「いいぞー！」と心の中でガッツポーズになるおとな忍者たちです。



いつのまにか、落ち葉掃きをしている参加していない子どもたちも、「子ども忍者をみなかったか？」という影忍者に「あっちにいきました」など知らぬ存ぜぬ顔で助けるなど、関わっています。小春日和の温かな日差しの中で、落ち葉のカサカサいう音や、ひらひらと落ちる落ち葉の下、子どもが子どもらしい時間を過ごしている姿は、本当に美しく温かく、そして輝いています。

おとな忍者はもう走れませ〜ん、動けませ〜ん。SOSです。すると子ども忍者たち、「ここで待ってて、あっちをみてくるから、うごいてはいけんよ」、いつのまにか立場は逆転です。

低学年高学年チームの2度目の作戦会議のあと、やっと高学年チームが巻物のありかを見つけました。それでも低学年チームはまだわからず焦っています。そしてやっと「あったーっ！」修行終了。なんだ、こんなところだったのー！「しかく、まわる」ってこういうことー？洗濯機とは・・・わからなかった、そうか、しかく・まわる！口ぐちに叫びながらも達成感の顔が並びました。

最後は時間オーバーの中、チャンバラ修行！子どもVSおとな、31人対16人！相手チームに攻め入り、みどり、黄色の風呂敷（旗）を先にりんごシャキシャキ忍者にとどけた方が勝ちです。

おとな忍者はもう疲れて動けない、しかも少ない！そこで見学の保護者さんにもはいってもらい人数補強をして子どもたちに向かいます。

攻める人、守る人、それぞれ決まりいざ決戦！のはずがあっという間に1回戦は子ども忍者の勝ち！鉄壁の守りの作戦の裏をかかれ、攻め入る子ども忍者を「切る」ことができずあっという間にとられてしまったのです。

おとな忍者も果敢にせめますが、子ども忍者の作戦はその上をいきます。

前回は雰囲気圧倒されて人の影にかくれうしろからやっとの思いでついていった子どもは今回は先頭をきって飛び出す姿、みんな



に圧倒されおろおろとついていく女子、はじけまくる低学年男子、冷静に全体をみる高学年たち。おとな忍者もおとななんてことは忘れて、対等に戦います、あそびモード全開なおとなに子ども忍者たちの顔が輝きます。飛び入りの男性たちも全速力で子ども陣地に切り込みますが、あっという間に助けを求めています。

こんなあそび、私たちの小さいころは当たり前でした。いつしか群れてあそぶことも新聞紙などというものはあそび道具から消えてしまいました。でもきょうは、心も大きく開き、空に地に向かい大きな声が飛び交います。全身で跳ねまわります。おとなも大声で笑います。みんなの短い至福のときが流れます。あそびの持つ大きな力、そのなかで学ぶものの多さ、もっともっとこんな時間を子どもたちに持ってほしい・・・生きていくということを全身で感じてほしいと願います。

そして大きな勝利の声は子どもチームから！また勝てなかったおとなチームはヘトヘト・・・おかしい、攻めていたはずなのに・・・なんでだね・・・。子どもたちの得意そうな顔、顔、顔。



秋の穏やかな日差しが校庭にさし、影が長くなってきました。

なんと楽しいひとときだったか、よくみんな話合ったねー、みんなチームの仲間と一緒に動いたねー、

ドキドキしたねー、「おとうさーん、私、石になっていたら影忍者が座ったんだよー！」、そんな心躍る時間、かけがえのない関わりがある、親子共通の思い出がある、やりとげたという友だちと共有する思いもある、これがシアワセといわ

ずなんだろう・・・ 子どもたちは本当に宝だ！

おとなはキミたちから生きる力、明日の力を感じているよ！

最後は修行の証「巻物」をお頭様からいただき本当の忍者のように、懐にしまう子ども忍者、広げて高々とお母さんに見せる子ども忍者。

来年の再会、再決戦を近い、本日の全修行終了—————！ 皆さんおつかれさまー。



チームの仲間と共に進む力、想像力、未知に向かう気持ち！

相手を子どもを愛おしいと思う心！

はじける心と楽しむ力！あそびの中には、生きる力が満載だ！

そのピカピカの心を誇りにして、一歩ずつ進めよ、子どもたち



力は己(おのれ)のなかにあり！

この事業は、松江市社会福祉協議会から配分を受けた篤志寄付金（香典返し等寄付金）を財源の一部として行いました。ありがとうございました！